

文部科学省委託事業 令和4年度地域における青少年の国際交流推進事業

2022年度宮城県青少年国際交流推進事業

「サマースクール宮城・女川」

成果報告書



令和5年3月
宮城県教育委員会

1 趣旨

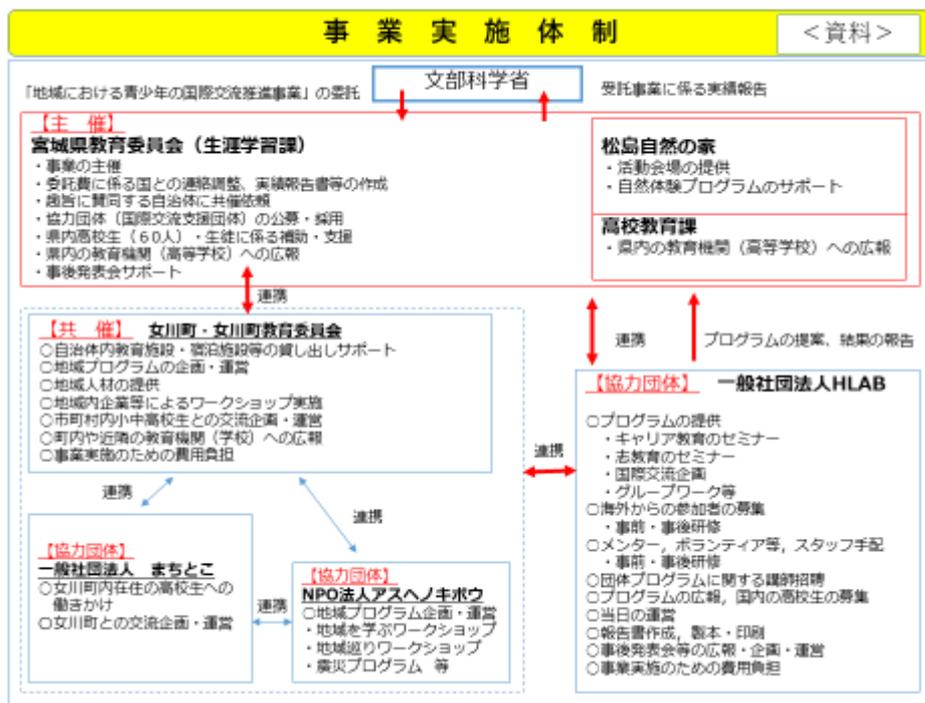
- 宮城県内外の高校生等に、「国境も言語も世代も超えた多彩な出会い」を通じて、社会性や労働観を養い、自己を見つめ直し将来を真剣に考える機会を提供するとともにその成果を普及することで、みやぎの志教育を推進する。また同時に、外国語に親しみ、外国語への意欲と語学力の向上を図る。
- これからの復興を担う県内外の高校生・大学生が、海外の大学生に、現在の復旧・復興の様子を伝えるとともに、今後の復興についてディスカッションすることを通して、将来の宮城のあり方について考える契機とする。また、本事業を通じて国内外に宮城の復興の様子をアピールする。

2 事業実施体制

(1) 実施体制

- ◎主催 宮城県教育委員会
- 共催 女川町、女川町教育委員会
- 協力 一般社団法人 HLAB
一般社団法人 まちとこ
特定非営利活動法人 アスヘノキボウ

【事業実施体制図】



(2) 主催・共催・協力団体の役割

本事業は、「女川町」及び「女川町教育委員会」と共催するとともに、国際交流推進に係る各種プログラムを有する「一般社団法人 HLAB」（以下「HLAB」）と連携して事業を実施した。また、女川町における企画内容の構築や全体のプロジェクト運営におけるサポート役として「特定非営利活動法人アスヘノキボウ」（以下「アスヘノキボウ」）、及び女川町中高生との交流企画運営役として「一般社団法人 まちとこ」（以下「まちとこ」）も協力団体として加わった。上記4団体と県教委とで実行委員会を組織し、適宜情報共有をしながら、それぞれの役割を明確化した上で、事業

を推進した。

なお、宮城県教育委員会として、高校教育課並びに松島自然の家も実行委員会に参画し、自然体験活動及び防災教育、探究的な学びの観点からのプログラムの実施、県内高校への広報等に携わった。

①宮城県教育委員会

○本事業を主催し、全体の取組の企画運営に責任を持つ。また、事業実施に必要な協力主体と連携し、企画の進捗管理を行った。

○県内高校に、本事業に関する事前の広報活動を行った。

○本事業終了後、主に参加者の通学する各高校で報告会を実施し、活動の認知度を広めた。

②女川町及び女川町教育委員会

○本事業開催に際して、町の所有施設を開催場所として提供した。(女川町まちなか交流館等)

○震災からの復興・復旧を目指す人々や地元企業に働きかけ、各種プログラムにその人材を提供した。

○町内においては、町報での告知等、町内全域に情報が行き渡るよう積極的に広報活動を推進した。

③一般社団法人HLAB

○本事業の実施に向けて、海外大学生や通訳可能な英語力を有する国内大学生をメンターとして組織化し、派遣した。

○本事業の主たる企画及び運営を担った。

④NPO法人アスヘノキボウ

○女川町の人材や地元企業に働きかけて、地元の商店街や地元企業でのワークショップ等を企画した。

○期間中のプログラム実施において、アドバイスやサポートを必要に応じて行った。

⑤一般社団法人まちとこ

○女川町の高校生への広報、探究的な学習プログラムについての助言等を行った。

3 事業実施期間 文部科学省委託契約締結時から令和5年3月10日まで

4 年間スケジュール

○令和4年

6月23日(木)：第1回実行委員会(オンライン)

・実施計画詳細検討,会場等確認

・募集,広報等開始

・参加者(高校生)募集開始

・運営ボランティア募集開始

・各種プログラムのゲスト打診開始

7月17日(日)：メンター等事前研修会(会場：女川町)

7月28日(木)：第2回実行委員会(宮城県・女川町・HLABのみ：オンライン)

・対面での実施を確認(新型コロナウイルス感染症対策を講じた上)

8月11日(木)～15日(月)

・「サマースクール宮城・女川」実施

8月16日(火)～17日(水)

・新型コロナウイルス感染者発生のため、残り2日間を中止とし、閉会式(出発式)は後日連絡を

して開催することとした。

8月18日(木)：メンター等事後研修会(会場：女川町)

9月15日(木)：第3回実行委員会(オンライン)

・閉会式(出発式)の日程についての検討

10月8日(土)

・「サマースクール宮城・女川」閉会式実施

10月～12月：参加者所属校や、青年の主張等各種発表会に高校生が自主的な報告

○令和5年

1月31日(火)：第4回実行委員会(オンライン)

・成果と課題の確認

2月10日(金)各実行委員へ第4回実行委員会議事録を送付

5 「サマースクール宮城・女川」の実際

<p>○1日目 8月11日(木)</p> <p>14:00-15:00 開会式,オリエンテーション</p> <p>・挨拶 宮城県教育庁参事兼生涯学習課長 武田 健久 HLAB 実行委員長 千葉 毅朗</p> <p>・祝辞 女川町教育委員会教育長 平塚 隆 様</p> <p>15:00-16:00 アイスブレイク,オリエンテーション</p> <p>16:00-18:00 女川アドベンチャー(町内散策)</p> <p>21:00-22:30 リフレクション</p> <p>【開会式】</p> <p>一堂に会しての開会式が3年ぶりに行われた。参事兼生涯学習課長：武田健久による主催者挨拶,実行委員長：千葉毅朗の挨拶で「サマースクール宮城・女川」がスタートした。開催地女川町からは,女川町教育委員会教育長：平塚 隆様に御出席いただき,高校生や大学生に向けて,本事業を通して多くの学びを得られることへの期待など,温かいお言葉をいただいた。</p> <p>○2日目 8月12日(金)</p> <p>9:00-12:00 セミナー</p> <p>13:00-14:00 松島自然の家への移動 入所式</p> <p>15:00-17:30 自己分析系企画過去編</p> <p>19:00-21:00 大学生フリーインタラクティブ</p>	<p>【セミナー】</p> <p>海外メンター7名との顔合わせや専門分野に関する説明・導入を実施した。</p> <p>【自己分析系企画過去編】</p> <p>高校生参加者が大事にしたいことや価値を感じていることは何か,今後どのようなアクションを起こしたいのか等,ハウスの仲間や大学生メンターとの対話を通して,自分自身について考えるプログラムを実施した。対話をするうちに自分が本当に大事にしたいことや今後取り組みたいことを明確にするきっかけを得ることができた。</p> <p>【大学生フリーインタラクティブ】</p> <p>海外メンターが英語をもとに簡単なゲームや大学に関する質疑応答などを行い,高校生との交流を図った。高校生が英語を正しく使い,間違えることを恐れずに,積極的に海外メンターと関わることを目的とした。</p> <p>高校生からは,緊張することなく,想像よりも積極的に関わったことや英語を生かしてのコミュニケーション能力が以前よりも増したことが述べられていた。</p> <p>海外メンターからも目的が達成されたとの報告が寄せられた。</p> <p>高校生から大学生に対して,大学入試や海外留学に関することや学習分野,日常生活の悩みなどに関する幅広いテーマで対話を実施した。</p>
---	---

○3日目 8月13日(土)

8:30-12:00 セミナー
13:30-16:00 自然体験活動(ハイキング)
16:00-18:00 野外炊飯
19:30-21:00 リフレクション

【セミナー】

海外大学生と日本人の大学生がメンターとして大学での学びについて英語でディスカッションするプログラムを実施した。多様なテーマの中から高校生は自分の関心に合わせて自由に体験することができた。高校生にとって、新しい興味分野を発見する機会となった。

【自然体験活動(ハイキング)】

自然体験活動として、各グループごとに散策し、仲間との交流を深めることができた。

【野外炊飯】

自然の中で夕食を作ったり、食べたりすることによって、普段何気ない風景もより美しく感じられ、食が大いに進んだ。

※台風8号の影響により、食事後に予定していたキャンプファイヤーは中止

○4日目 8月14日(日)

8:30-12:00 セミナー
13:30-14:30 女川町へ移動
15:00-17:00 社会人フリーインタラクティブ
17:00-18:30 女川探求企画
19:30-21:00 リフレクション

【セミナー】

それぞれの分野のまとめと最終発表を行った。高校生からはこれまでのセミナーを通して、英語で発表する場面があった。

【社会人フリーインタラクティブ】

各ハウスに分かれ、ゲストの紹介やこれまで取り組んできたことの紹介などを行い、高校生の感想の共有を行った。

<ゲスト>

ハイブリッドティーチャーズクラブ 代表 木野雄介 氏
アスノオト 代表 信岡良亮 氏
三井物産株式会社 事業部 飯島慎悟 氏
東急 岩田健太 氏

パナソニック 小澤しおり 氏
電気通信大学 速水 陽平 氏
ソフトバンク 柳原 杏 氏
住友商事 平野 大地 氏
Peaux 原田 卓子 氏
資生堂 林 裕太 氏

【女川探求企画】

社会人として活躍されている方による講演とパネルディスカッションで構成されるプログラムを実施した。かまぼこ工場を経営しながら、復興に向けて地元女川をどのように元気にしていくかを考え、イベント等を誘致した実績のある高橋氏から高校生に向けて地域で生きる意味やアクションの仕方について熱いメッセージをいただいた。

<講師>

株式会社 高政 代表取締役 高橋 正樹 氏

○5日目 8月15日(月)

※軽登山は雨天のため中止

10:00-12:00 女川社会人企画
14:00-16:00 フォーラム

【女川社会人企画】

女川町に在住又は関係のある方々の話を聞き、震災以降の活動の様子や高校生に期待することを自由に話してもらった。

<ゲスト>

南郷小学校 校長(元女川小 教頭) 青山 修司 氏
女川町議会議員 隅田 翔 氏
まちとこ 代表 芳岡 孝将 氏
漁業(自営業) 鈴木 洋輔 氏

【フォーラム】

幼少時の過ごし方やこれまで経験してきたことから落語家への道のりについて、ユーモアを交えて話してくれた。どのような人でも可能性を持っており、悔いのないよう取り組むことが大事であることを高校生に訴えた。

<講師> 落語家 立川 志の春 氏

※新型コロナウイルス感染者が発生したため、以降中止とした。

○6日目 8月16日(火)：中止

○7日目 8月17日(水)：中止

○10月8日(土)

13:00-14:00【閉会式(出発式)】(オンライン開催)

- ・挨拶 宮城県教育庁生涯学習課社会教育推進班
課長補佐(班長) 石川 寛之
HLAB 実行委員長 千葉 毅朗
女川町教育委員会生涯学習課
次長 木村 英貴
- ・高校生代表挨拶 色川 歩杜

サマースクールの終わりであると同時に、参加者一人一人の新たなスタートの意味を持つことから閉会式=出発式と命名した最終プログラムを実施した。新型コロナウイルス感染者がでたため、2日間は実施できなかったが、参加者一人一人が自分自身の変化・成長を発表するとともに、今後の抱負を堂々と宣言することができた。そして、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた頃にはまた、女川町で再会することを約束した。



開会式



オリエンテーション



社会人フリーインタラクション



自然体験活動(ハイキング)



セミナー



女川社会人企画

6 成果報告会

参加者の成果発表

新型コロナウイルス感染症感染者発生のため、以下の方法で実践した。

<参加者が在籍する学校等での発表>

- ・学園祭，文化祭での発表
- ・教室での成果発表
- ・SNSでの発表（フェイスブック，インスタグラム，ツイッター等）
- ・作成したレポートによる発表（廊下への掲示，学校通信への掲載，友人への回覧）
- ・家族や友人への報告（オンライン発表を含む）

参加者独自の発表会における報告は，延べ5，005人に対して行われ，一人当たりの平均人数は94人であった。

なお，新型コロナウイルス感染症感染により，これまでの成果についての実践や発表が困難であった参加者が数名いた。家族等何らかの形で進めるよう一般社団法人HLABを通して連絡をしてもらったが，難しい面が反省として残った。



学級の発表会

7 成果と課題

(1) 成果

- コロナ禍において，リアルなプログラムの実施や共通体験等ができたことは高校生にとっては特別な時間となり，将来を見通す機会となった。
- 海外大学生が思う日本や自己の生き方について直に感じることができ，海外への留学や日本の良さの発信など可能性を広げたり，貢献したいという高校生の生の声を聴くことができた。
- 被災地女川町で復興・復旧に取り組む方々の熱い思いや考えを感じることで，郷土愛を培うとともに，被災地宮城の復興に対する興味・関心を高めることができた。
- 閉会式(出発式)では，学んだことやこれからどのようにアクションを起こしていけばよいのかについて，一人ひとり考えることができた。

(2) 改善点

- 地元で活躍する地元の青少年とのリアルな交流ができると，現状が見え，前向きな意見交換ができると考える。
- 参加生徒が何らかの場での発表や発信することで，表現力の育成や自己肯定感を高める要素になると考える。